

# Cisco Unified Communications Manager CAPF サービス拒否の脆弱性

High

アドバイザリーID : cisco-sa-  
20090121-cucmcapf

初公開日 : 2009-01-21 16:00

バージョン 1.0 : Final

CVSSスコア : [7.8](#)

回避策 : [Yes](#)

Cisco バグ ID :

[CVE-  
2009-  
0057](#)

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

## 概要

Cisco Unified Communications Manager は、以前 Cisco Unified CallManager、プロキシ 機能 ( CAPF ) サービスでサービス拒否 ( DoS ) 脆弱性が認証局 ( CA ) 含まれています。この脆弱性の不正利用により音声 サービスで割り込みを引き起こす可能性があります。CAPF サービスはデフォルトでディセーブルにされます。

シスコはこの脆弱性に対処するソフトウェア アップデートをリリースしました。利用可能なこの脆弱性を軽減する回避策は利用できます。

このアドバイザリーは <http://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20090121-cucmcapf> で掲示されます。

## 該当製品

### 修正済みソフトウェア

脆弱性を含む製品は次のとおりです。

- 5.1(3e) 以前の Cisco Unified Communications Manager 5.x バージョン
- Cisco Unified Communications Manager 6.x バージョン前の 6.1(3)

Cisco Unified Communications Manager バージョン 5.x および 6.x を稼働しているシステムの管理者は Cisco Unified Communications Manager 管理インターフェイスのメイン ページの表示によってソフトウェア バージョンを判別できます。ソフトウェア バージョンはまた Command Line Interface ( CLI ) を通ってコマンド `show version` アクティブを実行することに

よって判別することができます。

## 脆弱性を含んでいないことが確認された製品

Cisco Unified Communications Manager バージョン 4.x および Cisco Unified Communications Manager Express はこの脆弱性から影響を受けません。他のシスコ製品において、このアドバイザーの影響を受けるものは現在確認されていません。

注: この脆弱性のためのソフトウェア修正プログラムと提供された Cisco Unified Communications Manager は 7.0(1) 影響を受けていないし。

### 改訂履歴

リビジョン 1.0	2009-January-21	初版リリース
--------------	-----------------	--------

### 利用規約

本アドバイザーは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザーの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザーの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。